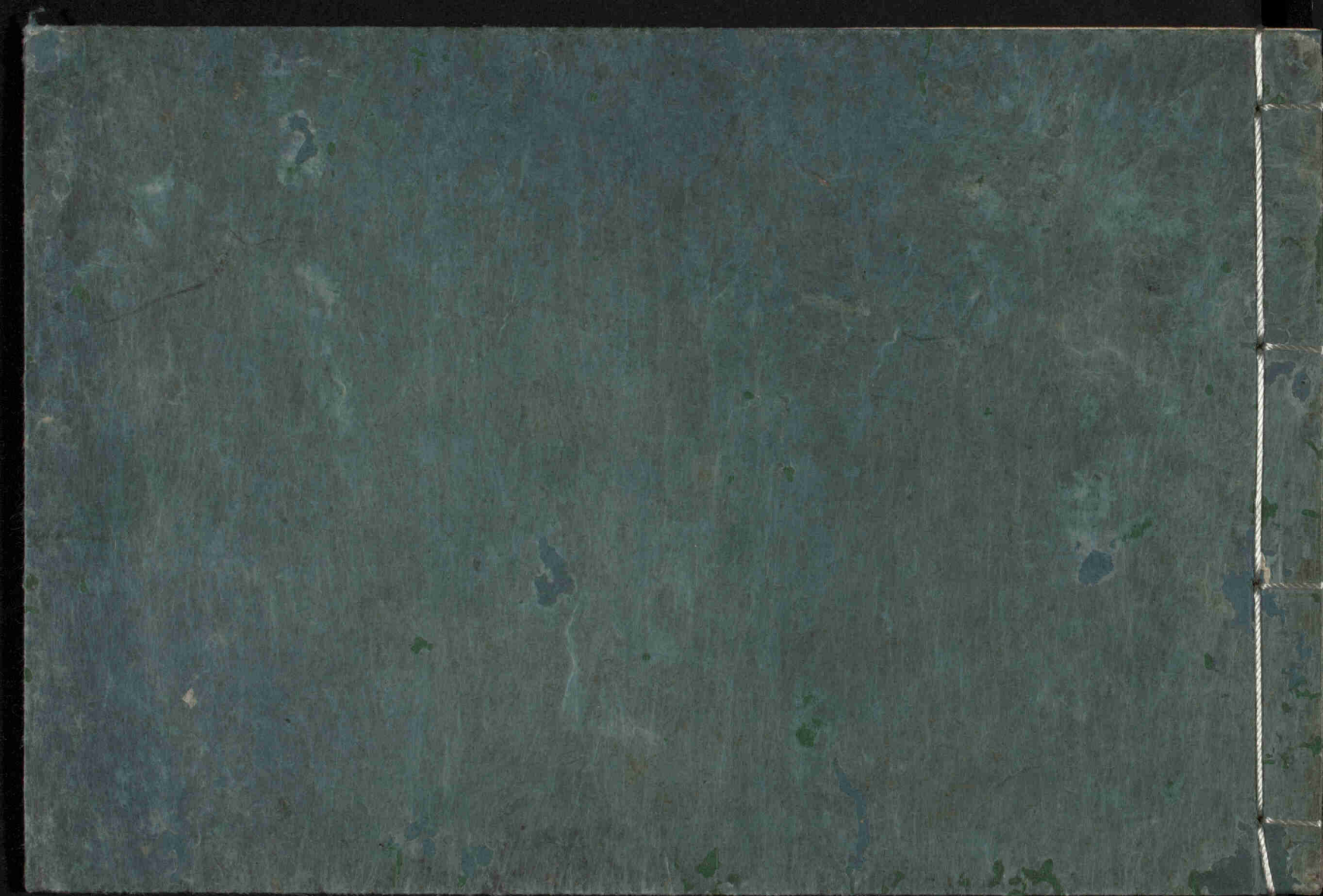




山田

- 一 式三献しきさんけん乃事
- 二 梅子うめこ乃事
- 三 川後封かわごほう乃事
- 四 三山さんざん乃事
- 五 肉にく乃事
- 六 腸ちやう乃事
- 七 師し乃事
- 八 三橋さんきやう乃事
- 九 封ふう乃事
- 十 饗きやう乃事
- 十一 秋盛あきもり乃事
- 十二 忘わす乃事

るれ國常立^{たこ}ちの^たを^たり^たお^たり^たて^たて^た

天^{てん}地^ちひ^ひう^うさ^さう^うて^て百^{ひゃく}

後^ごの^の山^{さん}に^に二^につ^つを^を須^す弥^み山^{さん}と^とい^いふ

付^つく^くふ^ふろ^ろそ^そて^てや^やも^もろ^ろト^トハ

風^{ふう}そ^そて^てと^とあ^あ須^す弥^み山^{さん}と^とい^いふ

よ^よと^とう^うて^てあ^ある^る南^{なん}山^{さん}と^とい^いふ

山^{さん}震^{しん}且^{かつ}古^こ朝^{てう}之^の國^{こく}皆^{みな}南^{なん}也^{なり}

よ^よ二^につ^つは^は山^{さん}あり^{あり}東^{とう}に^に大^{だい}新^{しん}山^{さん}虎^こ

は^は山^{さん}是^こ二^につ^つあ^あふ^ふ汗^{あせ}い^いも^も二^につ^つ南^{なん}よ

鼻^{はな}山^{さん}馬^{うま}山^{さん}も^も二^につ^つ水^{みづ}火^か山^{さん}子^こ

山^{さん}麒麟^{きりん}山^{さん}も^も二^につ^つ中^{なかつ}小^{せう}尾^び民^{たみ}達^{たち}

羅^ら山^{さん}も^も本^{ほん}山^{さん}也^{なり}

東鐵圍山

大鐵圍山

西持軸山

持雙山

北善見山

信木山

如此名付東山と南山と

山同くこの名に依りて

名付くを三つをて之を以

四王天

增長天

須弥山

の守護神也

切利天

夜摩天

都率天

樂變化天

他化自在天

右欲界

梵衆天

梵補天

大梵天

少光天

无量光天

極光天

少淨天

先重淨天

遍淨天

无雲天

福生天

廣果天

无煩天

无熱天

善現天

善見天

色究竟天

右色界

空无邊處天

色无邊處天

无所有處天

悲相天

非々相天

右无色界

一界是成

水ハツヨク山にて九山をさぐるハ
海ハ八太紗王座と

維陀龍王

跋維陀龍王

娑竭羅龍王

大脩吉龍王

德叉迦龍王

阿那婆達多龍王

摩那斯龍王

優鉢羅龍王

おのく百子方依の眷属を

乞し須弥を守護するなり

あちの国は十六乃大國の百

乃中國十千れ小國を多の西

散國を是より人おせし

散國

國常立る

中二

國狹提る

中三

豊斟渚る

右三代の間老陰陽未分

中四

泥土煮る

中五

泥土煮る

中六

大戸道る

右三代ハ陰陽二神ハ同時ニ生

それとも未和合の候

中七

伊弉冉命

以神和合日神月神蛙子素盞

鳥等と神子人化らん

是れ神七代也へのうめ

一

天照大御神

廿

正哉我勝焉

中

瓊に杵の杓み

十四

火火出見かかてあみと

中五

あしきことあり
物言ふふ

是地祇之神也須臾之間

よは季^きに四季はひて年成

きへりも家の時うゝい

是に報^{はぐ}應^{おこ}ふ三所也^{ちい}慈^ち悲^ひのな

ありあり
是れと
正五ハ
祢
の

てゆきまゝと上りてお天遊々遊々

天下若多事人少用事人

まて
あ
を
く
は
天照太神

月津堂ツキヅはれりてふらふ

一 是 諸 須 孫 山 一 乃 沙 法 在

トと云ふも右ノ百億の山河

同車以終又八大新王八大海小

川のうしろを人馬あり

[illegible]

おもひねい^{えん}や^ん三^ん望^{ぞう}あへ文^{ぶん}も

室も人皆食勸ふ所も三

このは、うの
易王うの文王うの是なりと
たうとうふぞき

帝少昊顓頊高辛

卷之二十一

帝^{たい}皇^{こう}高^{こう}辛^{しん}唐^{たう}堯^{ぎやう}虞^い舜^{しん}此^この
代^よは^は父^ふ子^しさ^さく^く傳^{でん}ふ^ふと^とい^いふ^ふも^も未^みに
と^と成^{なり}ふ^ふに^に非^ひず^ずく^くよ^よと^とれ^れ又^{また}
む^むあ^ある^る人^{ひと}を^を成^{なり}親^{おや}と^とし^して^て後^{あと}
孔^{こう}子^しが^がて^て三^{さん}行^{ぎやう}入^に常^{じやう}と^とお^おふ^ふ
三^{さん}行^{ぎやう}と^とい^いふ^ふも^も愚^ぐの^の礼^{らい}父^ふ子^しに
礼^{らい}史^し婦^ふ乃^なれ^れは^は常^{じやう}と^とい^いふ^ふも^も仁^に義^ぎ
禮^{らい}智^ち信^{しん}是^ぜ也^や故^{ゆゑ}は^はあ^あん^んと^とい^いふ^ふも^も
あ^あて^てて^てう^うし^しり^り四^し徳^{とく}と^とあ^ある^る光^{くわう}
武^ぶと^と文^{ぶん}と^とい^いふ^ふの^のか^かあ^ある^るあ^あら^ら
は^は莫^{もく}を^を知^して^て切^きる^るは^は伊^い特^{とく}孫^{そん}
も^もう^うら^らる^るや^やと^とい^いふ^ふも^も筋^{しん}力^{りき}と

と^と終^{しゆう}人^{にん}教^{きやう}と^と云^いふ^ふ法^{ぽう}を^を以^{もつ}て^て料^{りやう}
理^りを^を以^{もつ}て^て文^{ぶん}と^とい^いふ^ふも^も孔^{こう}子^しに^に対^{たい}
し^しの^の事^じ也^や是^ぜ三^{さん}國^{こく}は^は少^{せう}法^{ぽう}し^しに
七^{しち}師^し膳^{ぜん}八^{はち}練^{れん}及^{およ}び^びと^とい^いふ^ふも^も祝^{しゆ}儀^ぎに^に對^{たい}
あ^ある^るも^も中^{ちゆう}の^のん^んと^とい^いふ^ふも^もを^を以^{もつ}て^て
饗^{きやう}膳^{ぜん}と^とい^いふ^ふも^も富^ふ貴^きと^とい^いふ^ふも^も孫^{そん}長^{ちやう}
久^{きう}の^の法^{ぽう}は^は後^{あと}あり^り
一^{いつ}式^{しき}三^{さん}献^{けん}の^の事^じ
海^{かい}月^{げつ}莫^{もく}定^{てい}人^{にん}也^や食^{しょく}と^とい^いふ^ふも^も莫^{もく}乃^な
中^{ちゆう}よ^よう^うら^らひ^ひを^を食^{しょく}と^とい^いふ^ふも^も後^{あと}つ^つき^き
の^の莫^{もく}と^とい^いふ^ふも^も食^{しょく}と^とい^いふ^ふも^も乃^な
と^と新^{しん}献^{けん}小^{せう}用^{よう}也^や

一 梅干の事

梅干の初より一花ひきを下
皆去也春は日永しむせ死
せも子花本のはさる也
是の也

一 川後の事

のと八枚をそ三十刀を
はりて十一とある人し八枚
延余の川後より出づ但女房
の川後ハはかみと也右れ
川後し和合と云々表して
つかことと云と

一 三ツ盆の事

日月盆の三老より見よ
賢く世をみて空圖あり
一 内外の事

能はさるふのなりて位は
る也何れも奥も外れの魂
まじれ位に何んとも唯
とれりやてまほや後よう
ち男六たのうは男引がた
もみたりうさたこのひ
をとりてうち男の沙汰引
沙汰る人しや何れも一う

まのトより枝さしれいさまを
かり枝さしのむれとへきし
ま葉かり子まかりみ葉と云
なりみ守のむれりトへき
まみそむれ也みうらみはあ
てふのむれまをみみみ
斗くみみ秘也色皮は
そそこのむれありは伝ふし
うらみみみみみみみ
かき何まに口傳ふ二日むた
はあてむれは傳ふみみ

一 腸葉之度

葉の位はむらみみみみ
み腹のむれはみみみ
み葉とみみ付てむれ
一 御まむけの事

みみみみみみみみ
むらみみみみ

一 ぶ橋栗の事

昆布ハみみ海草中みみ
ひみみみみみみ
むれみみみみみ
みみみみむれとみみみ
むらみみみみみみ

うて七百余歳をぬくもとい
て後と云ふは先揚と云ふ事
用あり

一 慰計之事

伊集院諸侯將帥より地味
み代に來れ人のまゝといひて
てありしは是れよくてせ
いありしそのは人れとて
まゝひてありと名付てせり
ふは是れは是れは秘あり
伊集院といふ平は九方よきなり
出ていと成是所祿多く也

然よのう救はせりふむと云
うと云ふ但のうと云ふと云
なりれ救ふと云ふなりれ救ふ
ありふからなりと云ふと云
らへりなりと云ふと云ふと云
中陣中陣よは傳是と云ふと
ツと云ふと云ふと云ふと云
ゆき

一 慰計之事

朝盛海是男朝盛川是女
山是男松是里是女なりや盛海
塩是男は川盛川水是女をり

抑りて毛國士と長と然も
りて國士と長と日む計也
し國界士女りてこの飯毛男
け食に常之筋をてしおこれ
食の常い右まりて食へて
さき下へなる様よさへ一他三
筋なり同とくを食へ然
女房の食の常い一海りて
下へてふれのをさる様小
是之筋なり同とく多る人し
一秋盛之年

角盛二つ十六乃大國み百乃

中國十ふれが國元常の衆散
國を長也然大根ふすた
る一毛男作甚毛女多め
さるてむ郷食膳の多と一は
ひのふれ多る一毛男
賢王の即位ふて人もと下
地村もうさき多中れ奥とよ
海より学あり然よりさふ
九りの早は表も食ハ
飯を秋ありにさありたれ
と飯と夫婦ありは陰陽
合は文也

立松之事

中郷食膳や秋盛しうらまへ
 あり中郷食膳の松はふ松を松
 もれ素へ女松ありまゆを
 中一松ふまへふ素はじまへ
 てかく中一ひまへいあけまへ
 乃心まへ八幡大菩薩とまへ
 一又素れまへ素をれい素は
 大助律とまへて中一
 中一もれまへ八幡とまへ
 中一素とまへまへ中一

こり付み強ひおして何れも
心のまへにさへ一瞬もそま
さうもくふ失はける是より松
を二むきまふ三國皆同も也
みやう一我れおして小里ハ
管と云老二生をらるもの也
はるる方の秋必弱のうらに
ひきをそく我れ門は立
心を人みかまあびての事也
まふまふ天竺も唐も
外一やう一ひまれば海は日
か國計あり七日の七る事

あふ大根芥るふおとこ
ふ路縁ゆき是より唐國は
農と一ふの草木とあり
万れやまひをふれや一毎
年正月七日のころ刻は天
里七種の菜ゆき秋種農
くちあそてひあそひ
ゆきありふれ不死れ
ふの粥は月九星はと光あり
餅は日神お月神と長して
ゆきひりやこころちあつて
けいより唐國へ仏教はあふ

あゝ氣れど大いにおやそはる
是よりあて居園小田寺
と寺ありかた寺におわく
をいたふ至ちおねはたよ
火成時たれ仏經いせけに
やう富と右の富經い
連た彼氣長久繁昌也
魔王障尋をふけや
はらん少て神道繁昌あり
然るにちやふけんとて
付た義長分ののく
をせい仏經富經を

ゆせられもごさる

一三月二日

あめなき
志者名
日書てゆ通とふ
とり火にん
これ一日
ゆ内
なれ家の
うんと
く
門よく
はちと
はちと

をきんしてみらひの玉とてま
じりて異國のこらにやういぬ日
に此長久の故より棕の葉を夷
に納め也むらうとて表して
まうもふら来をほくみぬ
八重と表して八重むとて周
ひ洛の路より新に也世也

一七 月一日

天地の人も人おまの面露
智れ四つをきて一切系来同せ
どやの来もと物と織る
をよひ本の葉とあみてもい

をうて式うれまうありき後天
らり星うらうらこの織物
をうけ星文婦あり七夕夜星
是也い星は糸ありさうめん
糸とらうらう也うらの日ハ星
一年一度らうら也なほ
糸とてい何なり糸は付るか
らの糸織物とて糸ありとて
下へはおめて七月七日ハ糸
土金糸とあてうて糸とあ
さうきやうして糸ねとて
糸とて織物なり也

廿六

の^{ちめ}ふけうてふせぶる也

そのべ
まゐる
あふ

羽田神左衛門尉

高橋長兵衛尉

寛永十九年 高橋元衛門尉

五月廿一日

中村十右衛門殿



大阪市心齋橋
赤志雅堂
通本町四丁目

山
田
元

110X
499
8